●今月の特集● 個性的で魅力あるまちへ！
市民が共におこすまちづくり事業 補助事業の様子

今治市民活動センターだより
夢サラダ Vol.62
2019.7.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。
「今治市民活動センター」
指定管理者：(特非) 今治NPO サポートセンター
【お問合せ】TEL/FAX 0898－25－8234
E-mail imanpo@nifty.com

市民協働のまちづくり

私たちの故郷・今治市。ブランディングが進んだり、新しい学生を迎えたり、活気を感じている方が多いはず。だた、一方で「賑わいがないな」「働きにくいな」と、地域の課題、身近な生活課題は山積。その問題は複雑化・多様化しています。今治市は「市民が共におこすまち」を目指し、「協働」のまちづくりを推進しています。地域の一員である私たち市民には、まちづくりに参画することが求められています！

協働の主体は市民！

行政だけでは解決できないまちの課題。解決の担い手として期待されているのは地域住民、NPO、企業などの多様な担い手です。それぞれの長所を発揮し、補い合って社会全体で公共を支えるための取り組みを進めることが求められています。パートナーとなる市民には、行政と対等な関係を構築できる自主性・自立性が求められます。

協働のしくみづくりが大切！

協働の主体である「市民」と行政のパートナーシップを「協働」と呼ぶことが一般的です。「市民」とは地域づくり活動を行う住民・団体はじめ、地域に暮らすみんなのこと。行政は地域の一員として、市民の目線で協働に携わります。今治市では「協働の指針」を定めており、また、主体的な市民活動を支援する補助金等の制度で後押ししています。

協働の基本原則

- 対等の原則
- 相互理解の原則
- 目的共有の原則
- 自主性尊重の原則
- 自立化促進の原則
- 公平性・公正性の原則
- 公開性・透明性の原則

2019 年度 市民が共におこすまちづくり事業 補助団体決定！

協働によるまちづくりを進めようと、まちづくり活動に必要な経費の一部を補助する制度があります。「市民活動推進事業」、そして行政テーマを提示する「テーマ型協働推進事業」を公募。書類審査、公開プレゼンテーション審査を経て、今年度の補助事業がスタートしています。

◂審査の様子
プレゼンテーションに耳を傾ける審査員。日頃は市民活動家として活躍する市民審査員もおり、現場に即した質疑応答が行われました。

市民活動推進事業

吉海町正味集落の里山復活事業 今治市吉海町正味自治会	鳥獣被害に悩まされる段々畑。新たな作物「オリーブ」の植栽を行い、産業化による集落の保全・維持を目指す。
BARI BARI block party! I Love IMABARI! 今治スケートボード協会	「スケートボード」をはじめ、若者に人気の競技で賑わいを創出。未来を担う若者がまちづくりに関わる機会を創る。
第二回松本町大作戦 松本町大作戦実行委員会	「おんまく」模擬店縮小の問題意識から、しばっち広場（今治大丸跡）で模擬店出店。中心地に人の流れをつくる。

▴去る６月６日に行われた公開プレゼンテーション。持ち時間 5 分間で、目的や概要を伝えるのは至難の技。

テーマ型協働推進事業

桜井渚泊推進事業 桜井漁業協同組合	桜井地域への観光客の誘導を目指し、朝市を継続開催。観光ニーズに応える桜井独自の体験商品を造成する。
Job Marche ～はたらける今治～ NPO 法人みとん今治	女性の活躍を伝えるロールモデル集を作成。学生の将来の参考への寄与、地域での仕事の魅力発信にもつなぐ。

◂応募書類には書ききれなかった思い、実現への熱意をアピール。

2018年度　補助事業をリサーチ！
今治市市民が共におこすまちづくり事業報告会

①
市民活動推進事業
継続性のある事業を支援。補助金交付は2回までOK！但し、前回の事業からの発展的要素が必要。

先般、2018年度補助事業の報告会がありました。暮らしやすいまちをつくる！そのために、市民と行政が協働する「種」はたくさんある！！そんなことを肌で感じる報告会でした。また、それぞれの団体が取り組む事業は連携できる可能性もあり、一致団結して相乗的に効果を創出できる可能性を感じました。報告会を機会に、それぞれの団体が連携し、よりよい事業推進を継続して欲しいです。

① ART ACTION IMABARI/アートアクション・イマバリ

地域の資産を活用しようと、現存する建築物、町並みを会場にアートイベントを開催。親子参加のワークショップでは今治中心商店街に子どもの笑顔が溢れた。

▲市民来場が主だったが、著名アーティストを招聘した催しには県外来街も。今治の認知度向上につながった。

◂新しい試みは関心を呼び、共感を育んだ。店主等、住んでいる人との連帯が生まれた。

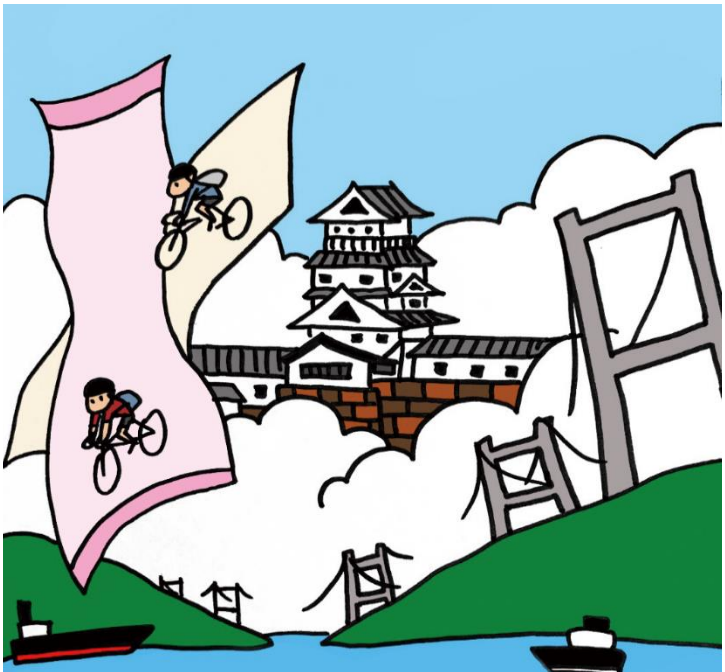
「ヴィサージュ」の再利用は反響があり、手応えがあった。連携につながった。

収支が合致するイベントとして継続したい。場・チャンスを提供し、担い手を育成したい。

今治ホホホ座

審査委員声

「賑わいの回復」という大きな目標達成への道のりは険しい。イベント（点）をまちの再生（面）にするために取組を継続して欲しい。



2000年に創設され、長年に渡り、市民活動の推進を支援してきた「市民が共におこすまちづくり事業。「公益性」「自発性」「費用対効果」等の審査項目によって補助団体が決まり、毎年、多様な活動が市内で展開されてきました。2017年度は「市民活動推進事業」一団体、「テーマ型協働推進事業」四団体が選定され、市民の参加を得ながら、活発な活動が展開されました。

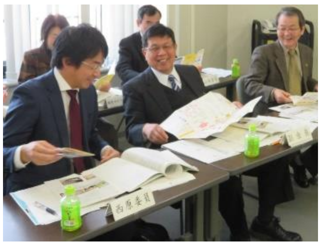
★事業報告会 開催★

年度末には「市民が共におこすまちづくり事業報告会」が開催され、選考に関わった委員による事業評価が行われました。

限られた事業実施期間で精力的に活動した様子について、写真や成果物を提示しながらの発表。活動への思い、実践での気づきが伝わってくる“熱い”報告会となりました。参加者が思うように集まらなかったり、自然災害等により開催が見送られたり、苦渋の場面も伝えられ、審査委員の中には市民活動家が多いことから、その苦労への労いの声がかけられました。

一方、継続的に支援している事業もあることから、補助金に頼らない物心両面での自立した運営についてのビジョンが厳しく問われる場面もありました。また、限定的なエリア、一過性に見えるイベントについては、今治市内全域へのモデル的波及、より多くの市民の巻き込み等が期待として寄せられました。

熱心な質疑で取組への理解を深めた。



成果物を手に取る審査委員
市民目線の出来栄えを評価。

②
テーマ型協働推進事業

市が提示したテーマに、市民活動団体が事業を提案。
担当課が「A･B･C」の三段階評価を実施。学校、自治会、企業等、多様な主体との協働事業を提案できる。

「補助期間が終了したら、それで終わり…」というものではなく、息の長い、継続的な取り組みが求められます。新しい令和の年がスタートしていますが、全ての事業が今年度も始動している様子。ぜひ、関心を持って、まちづくりの現場に足を運んでみてください。

②外国人観光客おもてなし向上事業

サイクリングを中心に来訪が増える外国人旅行者をお迎えする「看板」を製作、10 ヵ所に設置した。設置物を見て、地域の関心を喚起することにつながった。

◂「菊間瓦」の看板。地場産業として知られていることから、市全域への設置拡充を期待したいとの声。また、英語表記を目線の高さに配置する等の改善の提案もあった。

▴地元の中学校と連携。学生がデザイン、設置ポイント調査等に参加した。

予定していた「おもてなし研修」は地域の関心が薄く、断念。看板設置後の反響があったことから、今後はワークショップ形式で開催したい。

ふれあいステーションきくま
協働先：菊間中学校･松山大学ﾐｭｰｽﾞ
菊間町窯業協同組合

審査委員 声 観光振興、特にインバウンドの誘客は今治市全域での取り組みを目指すべきでは。看板設置等のハード整備はもちろん、参加が少なかった研修等は、広域での実現も期待したい。

③つけよう、いのちを照らす反射材!!

高齢者を交通事故から守るため、警察官や介護職員と協力し、3 世代で話題となる人気の反射材を貼付。警察署員と一緒に貼付し、着用率がアップした。

◂「身に付けたくなる」。デザイン性の高い反射材の完成に満足。配布年度の事故発生件数減少の報告は励みに。

認知症等を伴う▸場合もある高齢者の安全には周りの人の見守りが必要。地域ぐるみの取り組みへ。

反射材製作の公的支援があれば…。配布･啓発は「高齢者の安心」がミッションの NPO が得意。

「ありがとう」配布の際の高齢者の言葉が印象的。

NPO 法人わをん
協働先：今治警察署

審査委員 声 高齢者が関わる交通事故発生増加の中、非常に意義ある取り組み。夜間外出が多い若年層への啓発につなぐなど、事業の効果拡大を期待。増刷等に向けた連携、継続を期待したい。

④ケアラーズカフェ ～五感を癒そう～

介護職員を対象に心身を癒すプログラムを 4 回実施、延べ 45 名の参加を得た。行政からの開催周知等の連携で、情報交換の場づくりができた。

◂シフト制、不規則な時間勤務等、参加したくても参加できない介護職員へのプログラム提供には工夫が必要との気づき。

人手不足の現場で日々、▸疲れを感じている自分に気づくプログラム。怒りの感情を和らげる等、個別のケアにつながった。

翌日の活力になったという感想は励みに。

活動実績がない中、介護職員への開催周知に苦労。行政の支援は大きかった。

紡 （つむぐ）
協働先：今治市
愛媛県介護福祉会

審査委員 声 離職率が高い介護現場へのエールになる事業。連続しての参加による癒し効果が期待されていたが、リピーターの定着には開催の手法の課題もある。他機関との連携を深めて欲しい。

⑤「スマボ″（IMABARIスマート防災ノート）」作成と防災ネットワークの活性化

今治の災害特性を反映し、各家庭に応じた防災ガイドブックを作製。防災ネットワークづくりを目指した催しを開催しながら、実際に役立つ冊子を発行。

◂ワークショップやイベント開催で、専門家はもちろん市民の声を集めた。意見集約の会議は30 回にのぼり、250 名が参画した。

備えは千差万別。▸一般的な情報に加え、各家庭の情報を追記する「マイノート」作成の独自性はポイント。

事業を通して、関係者･催し参加者の数は 800 名を超えた。団体内の連帯感が育まれたことも大きな効果。

レディース＆ママ防災カフェ
協働先：今治市防災士会･人権啓発課

審査委員 声 表紙がかわいらしく、内容は分かりやすい。発行部数一万部の内の未配布分はワークショップ形式での配布する点も評価。増刷等に向けた連携、継続を期待したい。

協働の担い手講座

パートナーに求められるチカラとは

魅力あるまちにするために「協働」のパートナーとして期待される市民活動団体。担い手には企画から評価まで全ての段階に責任を持って関わる力が求められます。今治市民活動センターでは「企画力」「運営力」「会計力」等のスキルアップを応援する講座を開催しています。これまでに開催した講座の内容をお伝えます。

「効果的な企画書の書き方」

思いを実効性のある書面にしていく作業！

それが「企画書」づくりです。活動を継続的に展開する上で必要な資源として、「人・モノ・資金・情報 etc」があります。多くの方が「資金」を獲得する際に求められる書面が「企画書」であるというイメージがある様子。ただ、「企画書」を書き上げるには、団体の活動の目的、そして目的達成に向かうことができる組織の体制が必要だと気づかされます。

この日の参加者からは、会員減少、一部の役員への負担増加等、組織運営の問題に直面している声が…。まずは、団体内部で思い描くビジョンを共有。これが支援者として想定される補助・助成元に賛同を得る前提であることを確認しました。

後半は実際に「企画書」づくりにチャレンジ！

企画の構成要素である「６Ｗ３Ｈ」をおさえ、取り組みたい事業の中身を言葉や数字で表現していきます。

イベントをする、冊子を作る etc、具体的な事業骨子を落とし込む前に、社会的なニーズ、そしてニーズに応えることができる推進体制の見直しが必要です。

企画の基本構成！６Ｗ３Ｈ

●ニーズの2W1H●
＊なぜ(Why？)
＊誰のために(for Whom？)
＊どの程度まで(How Far？)

●手法・場の3W1H●
＊何を(What？)
＊どのように(How？)
＊いつ(When？)
＊どこで(Where？)

●資源の1W1H●
＊誰が(Who？)
＊いくらで(How much？)

「会員を増やしたい」「会議を円滑に進めるには…」内部的な課題が見えてきた参加者も…。「目的」を明確する「企画書」づくりの手法がここでも役立つはずです。

「プレゼンテーションの技術」

「企画」の中身を対面で伝える作業！

この日は「プレゼンテーション」技術を学ぶ講座。プレゼンテーションは相手への「プレゼント」です。あなた自身の“情熱”と合わせて、先の見通し、さらには聞き手の視点に寄り添う説明することが大切です。聞き手が“納得”し、“行動”してもらうことがプレゼンテーションの成功だからです。

◂「パワーポイント」を初めて使う参加者も。まずは「表紙」作り。色彩の原則、全体面積の使い方をイメージです。

書面では伝えきれない▸ことを整理。限られた時間を使って、伝えたい事をまとめられるよう「序論→本論→まとめ」を考えます。

（参加者の感想）

○今のメンバー全員が、楽しく活動できるようなわくわくする企画を考え直したいと思った。
○団体を立ち上げたばかり。とても勉強になった。
○実際に資料が出来上がり、自信ができた。
○学んだことを団体内部で共有したい。

「パワーポイント」を使っての資料づくり

「伝えたい相手は？」「伝える手法は？！」

補助金獲得に向けた準備、新事業の立ち上げの内部説明等、参加者がプレゼンテーションしようとする内容は多様でした。もちろん、伝える内容（企画の中身）は重要なのですが、伝える方法が相手の共感を得るものとなるかが、成功の秘訣です。ポイントを抑え、主流となっている「パワーポイント」資料作成のワークショップを行いました。

プレゼンテーションの構造

制約条件 ⇒
① 内容の抽出
② 絞り込みと構成
③ 情報の視覚化
④ 情報の分析加工
⑤ ツールの活用
⑥ 表現力＆言語能力
⑦ 人間的な側面
⇒ プラン作成

最後に全員が「プレゼンテーション」にチャレンジ！補助金・助成金の審査を想定し、4 分間で伝えたい事をまとめました。「呼びかけるようなパフォーマンスがいい」、「抽象的すぎて、中身が分からなかった」といった率直な意見が飛び交い、互いに助言し合う有意義な時間となりました。